

令和元年度第1回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和2年1月30日(木) 午後2時～3時45分

2 会 場 小田原市郷土文化館 会議室

3 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、鳥居副委員長、伊東委員、篠原委員、田尾委員、田嶋委員、中村委員、山下委員

(2) 市事務局側

栢沼教育長、安藤文化部長、石川文化部副部長、樋口生涯学習課長、
岡生涯学習課副課長、田中主任、中村主任、保坂主事

4 会議の概要

教育長の挨拶の後、委員及び職員が自己紹介を行った。その後、正・副委員長の選出に移り、委員の互選により委員長に一寸木委員、副委員長に鳥居委員が選出された。その後、議事に移り、進行は一寸木委員長が行った。

(1) 議題4 報告事項「平成30年度・令和元年度 郷土文化館事業について」

(資料1～6)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

①「令和元年度 学校利用状況」(資料1-1)について

委員より、中学生、高校生、大学生の利用が少ないのは博物館業界全体の悩みであるが、学芸員が学校と協力しカリキュラムマネジメントと評価を行う等の学校利用促進活動の検討が必要であると意見があった。

②「令和元年度 展示事業 実施概要」(資料2-1)について

委員より、インバウンド対策についての質問があり、事務局から現状では対応できていないが常設展において展示階層の見える化を実施したところであり、各章の簡潔な文章を英訳等することを今後検討したいと回答した。また、外国人来館者の人数について質問を受けたが、明確な人数は把握できないが増加傾向にあるため、周辺施設での外国人団体客数等を調査していきたいと回答した。さらに委員より、インバウンド対策ができておらず展示内容が理解できなければ、入館しても意味がないため、ボランティア等に依頼し多言語リーフレットやパンフレットなどから進めてみてはどうかとの意見があった。

③「令和元年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料4-1)について

委員より、寄贈資料について美術資料の絵画作者、山本鶴丘、赤岩賢三についての質問があり、事務局から小田原ゆかりの画家であり、小田原少年院で絵画指導にあたっていた。少年院閉鎖にあたり受け入れたことを回答した。

委員より、研究報告に小学生が文化財課職員と共同執筆したことについて、素晴らしいことであるので、より広報活動をして周知することを検討して欲しいと意見があった。

④「令和元年度 博物館構想推進事業における取組概要」(資料6-1)について

委員より、博物館講演会の最新事例とは何か質問があった。これに対して事務局より、相模原市立博物館では多様なボランティア活動を実施しており、ボランティア参加者が積極的に研究を始めている等の実績がある好例であるため最新事例として紹介し小田原の学芸ボランティアを考える機会としたい旨を回答した。

委員より、郷土文化館は建物として問題ないのか質問があった。これに対して事務局より、昭和20年の建築であり築70年以上が経過している古い建築物ではあるものの耐震補強工事を実施済みである。しかし国指定史跡小田原城公園内であるため移転する必要があること、さらに資料保管場所として劣悪である等の多くの問題を抱えていると回答した。

⑤「令和元年度 施設管理・整備活用関係業務 実施概要」(資料5-1)について

委員より、無住庵の茶室建築としての文化財的価値について質問があった。これについて事務局より、松永耳庵が200年以上前の農家の一部である古材を利用して建てた田舎家だが、近代数寄者が茶室としてだけでなく美術品の公開等を目的とした建物であり茶室建築と明言するものではないと回答した。また復元とは完全にオリジナルの形で建てることだが、完全な形で移築するのか質問があった。これについて事務局より、完全な形にするには建築基準法上困難であり、他市では条例により建築基準法の適応除外措置をする事例もあるが、当市ではこの条例が整備されていないため法令に則りつつ可能な限り復元し、条例の整備等の後に手を加えることも踏まえた手法で復元していると回答した。さらに委員より、今後文化財的な価値づけについて整理すること、また活用や周知の手法の検討についても意見があった。

(2) 議題5 協議事項「令和2年度 郷土文化館事業について」(資料7~11)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

①「令和2年度 展示事業 実施計画(案)」(資料7)について

委員より、市内の発掘調査で出土した遺物を展示する機会はあるのか質問があり、これについて事務局より、市内の発掘調査にて出土した遺物は文化財課所管資料であるが、優品などについては展示しており、現在郷土文化館・考古資料室の常設展示のうち8割程度が文化財課所管資料である。また年に一度新収蔵資料展を文化財課が実施しており本年度は郷土文化館を会場として開催したと回答した。

②「令和2年度 資料調査・収集・保管事業等業務 実施計画(案)」(資料9)について

委員より、令和3年度特別展に関する資料調査について特別展「近藤弘明(仮)」はど

の程度の規模かという質問があり、これについて事務局より、松永記念館本館・別館展示室を使った有料の特別展示を想定している旨回答した。

委員より、鹿島踊り調査について、県からの依頼とのことだが文化財課との住み分けはどのように行っているのかという質問があり、これについて事務局より、県から文化財課に依頼があり、市では民俗担当学芸員が一人しかいないため郷土文化館担当者が調査を実施している。文化財課所属の学芸員は考古学専門であるため、その他の分野に関する事は他の所管に所属する学芸員が分担して当たっていると回答した。

委員より、学校に保管されている美術品、教材などは処分されてしまう場合があるため気に留めて置く必要があると意見があった。

②「令和2年度以降 博物館構想推進事業における取組計画（案）」（資料11）について

委員より、市民ボランティアとの協働についてガイド協会との関係性について質問があった。これについて事務局より、郷土文化館、松永記念館ではガイド研修対応を行い、また郷土文化館の資料整理関係のボランティア活動に参加しているガイドボランティアの方もいるが、直接的に協働には至っていないと回答した。

委員より、平成28年度に博物館基本構想を策定してから博物館構想の推進がソフト面のみでありハード面の進展が見えないため、市としての姿勢について質問があった。これに対して事務局より、令和2年度にスタートする市の第4次実施計画に博物館基本計画策定等を盛り込み財源を確保したかったが、市では財政事情だけでなく市立病院の建て替え等の様々な課題があり、実施計画に盛り込むには至らなかった。しかし基本計画策定や用地検討・調査等、予算にかかわらず進められる部分から実施したいと考えていると回答した。さらに委員から、川崎市民ミュージアムが台風の浸水被害を受けたことから用地の重要性について意見があった。

（3）その他「令和2年度郷土文化館予算について」（資料13）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

委員より、ツーデーマーチでは郷土文化館や松永記念館を通るのか、コラボレーション等に予算を割いていないのかと質問があった。これに対して事務局より、松永記念館はコースになっており特別展示の無料化や仮設トイレの設置などに協力しているが、歩くことが目的の方が多く展示をゆっくり見る参加者は少ないため、ゆったりしたコースに割り当てて頂く等の対応ができれば良いと考えていると回答した。

（4）その他「郷土文化館常設展示アンケート結果」（参考資料）

最後に、参考資料として添付した郷土文化館常設展示のアンケート結果について説明した。

このことについて、委員からは特に意見は出されなかった。

以上をもって協議を終了した。協議後、無住庵の見学を行った。